日本医史学雑誌 第四十一巻第四号 目次

原著

モアビット病院の受難の背景――ナチス支配下のドイツ医学の一側面……泉 彪之助……四九七

島村鼎甫の業績と記録……津下 健哉……五三三

宇和島藩医ストライキの事――御医師中不和一件……林 敬……五四九

研究ノート

軍医寮発足のさいにみられた東校と兵部省の確執……深瀬 泰旦……五六七

資料

法隆寺蔵〔医薬調剤古抄〕釈読……アンドリュー・ゴーブル……五九三

江戸幕府の医療制度に関する史料（六）―鍼科医員島浦（和田）・島崎・杉枝・栗本家『官医家譜』など―……香取 俊光……六〇五

追悼

王丸勇先生の逝去を悼む……中山 茂春……六一七

記事

消息

「宮崎医学所之跡」建立に就いて……田代 逸郎……六一九

入澤記念庭園の整備事業を終えて……小坂井昭吾……六三〇

例会抄録

田邊一雄と複十字会活動……田邊 正忠……六三四

熱海喩汽館……尺 二郎……六三八

前近代の受胎調節をめぐって……新村　拓……六二九
『鎮将府日誌』について（その一・序説）……中西　淳朗……六二九
陰陽―中国古代医学の枠組み概念　其の一……家本　誠一……六三〇
紹　介
山本亨介著『種痘医小山肆成の生涯』……深瀬　泰旦……六三二
大塚恭男著『医学史こぼれ話』……大村　敏郎……六三四
岩田誠著『ペールラシェーズの医学者たち』……大村　敏郎……六三五
S・J・ライザー著・春日倫子訳『診断術の歴史―医療とテクノロジー支配』……藤倉　一郎……六三七
安井広著『ベルツの生涯―近代医学導入の父―』……岩崎　鐵志……六三八
竹内博編著『日本洋学人名事典』……宗田　一……六三九
石山昱夫訳『メンデ法医学小史（一八一九）』……小関　恒雄……六四一
日本医史学雑誌第四十一巻総目次……六四五

≪本号の表紙絵≫

種　痘　済　証

安政5年(1858)蘭方医83名の拠金により神田お玉ケ池に開設された「種痘所」は，翌6年下谷和泉橋通りに移った。種痘所は万延元年(1860)に幕府直轄となり，名称も文久元年(1861)に「西洋医学所」，さらに2年後「医学所」と改められた。

医学所で出された種痘済証は縦横15.4×11.0cmの和紙に「眞痘　文久四甲子年　医学所」と刷られ，「二月廿日」と毛筆で書かれている。文久4年2月20日は改元されて「元治元年」になった日である。

種痘済証は種痘を受けた人に渡すもので，「文久四甲子年」と年号まで版木で刷られているところを見ると，この頃は種痘を受ける人がかなりの数あったと思われる。右上方に朱の割印があるが，種痘を受けた人の名簿と照合した割印かもしれない。「眞痘」は「善感」したことである。

現存する種痘済証で古いのは，大坂の「除痘館」で発行した万延元年のもので，これには「疱瘡相済㊞除痘館」と書かれ，種痘を受けた児の名と年齢が記されている。

明治3年政府は各府藩県に通達して種痘の普及を始め，明治7年に「種痘規則」を定めて，種痘を受けて善感した者に種痘済証を交付することを義務づけた。

（蔵方 宏昌）